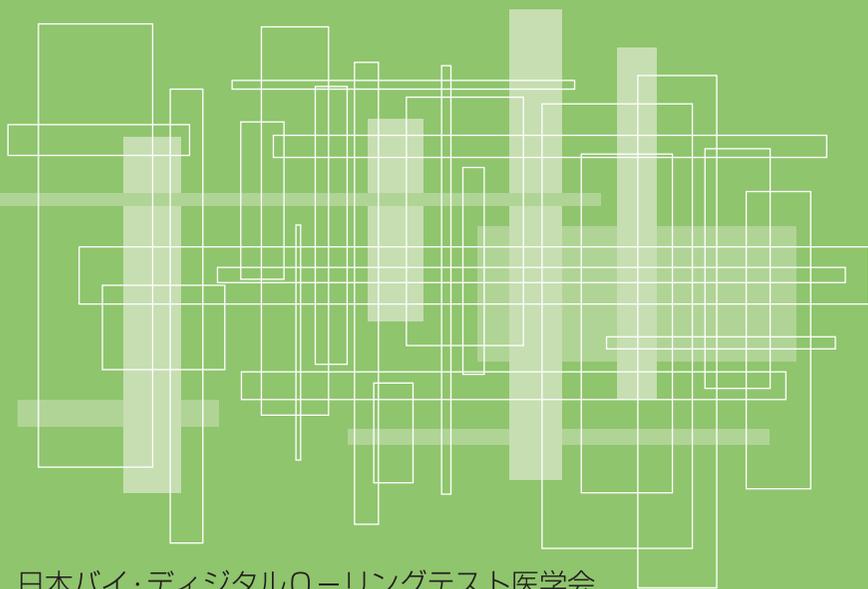


ORT 友の会 会報

■ BI-DIGITAL O-RING TEST BULLETIN ■



第18回 日本バイ・デジタルオーリングテスト医学会

「難治性疾患の診断と治療 進行癌・末期癌との穏やかな共存を目指して」

「環境汚染と「うつ」、自・他殺の社会的な増加についてBDORT (OMURA)

による診断と治療および 画像 (写真) 診断所見について」

2009

vol.16

ORT友の会



CONTENTS

オーリングテスト症例短報 下津浦内科医院	1
特集①「難治性疾患の診断と治療 進行癌・末期癌との 穏やかな共存を目指して」	2
特集②「環境汚染と「うつ」、自・他殺の社会的な増加 についてBDORT (OMURA) による診断と治療およ び画像 (写真) 診断所見について」	5
学会発表レポート	7
<連載コラム>オーリングテストのABC「NY国際学会での発表報告」	9
<連載>仙人伝説	11
オーリングのわ	13
学会発表レポート 大村恵昭教授の最近の研究について	14
大村恵昭教授 症例短報	16

発行先：〈日本バイ・デジタルオーリングテスト協会〉

〒830-0032 福岡県久留米市東町496東町ビル
TEL 0942-38-4181 FAX 0942-37-4131

●○○ ○ーリングテスト症例短報 ●○○
肝臓癌が BDORT 治療により改善した症例

(下津浦内科医院)

Short Report of the Clinical Case by using Bi-Digital O-Ring Test

A Case Report of Liver Cancer whose shadow in liver was prominently diminished and improved according to Guidance by using Bi-Digital O-Ring Test.(Shimotsuura Clinic)

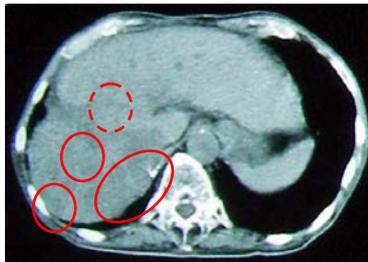
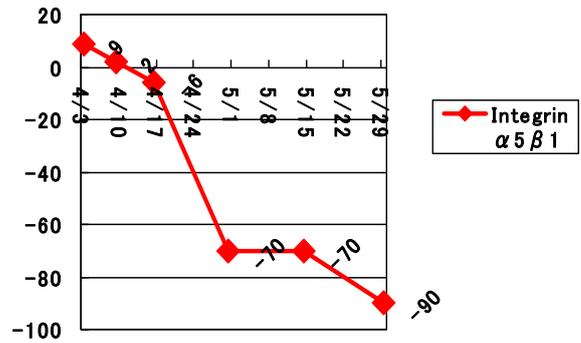
患者：70 歳代 男性
 傷病名：肝臓癌



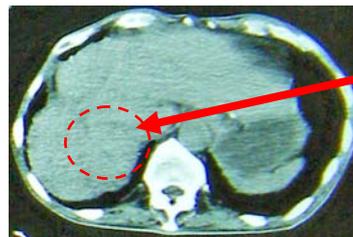
2008 年 4 月 3 日



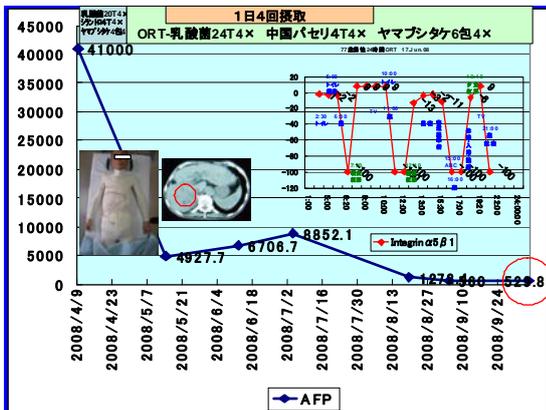
2008 年 6 月 18 日



2008 年 3 月 27 日



陰影が判別しにくくなっている



2008 年 6 月 12 日

余命 2 か月と言われて、下津浦内科医院を受診された患者さんで、BDORT でインテグリン α5β1 や腫瘍マーカーの α-フェトプロテイン (AFP) が低下するように、BDORT で薬剤を処方した。漢方薬の十全大補湯 7.5g 3×、乳酸菌 4T4×、シラト 4T4×、ヤマブシタケ 6 包 4×を服用してもらった。この方は AFP が 599974 ng/ml と高値だったので、1 日 4 回服用 (1 日 4 回法) してもらおうようにした。1 か月半くらい、寝室や居間の電磁波を発生するものを遠ざけ、1 日 4 回法で薬剤を飲んでもらい、腫瘍マーカーの AFP は、現在 530 ng/ml まで低下した。インテグリン α5β1 と AFP が低下するに伴い、腫瘍の影が徐々に小さくなり消失した。BDORT の結果が悪くなった時は、生活パターンオーリングテストをやってもらい、薬効を妨げるものを徹底的に調査した。紅茶や甘夏がキャンセルするので止めてもらった。現在、良好で経過観察中の症例です。

い、腫瘍の影が徐々に小さくなり消失した。BDORT の結果が悪くなった時は、生活パターンオーリングテストをやってもらい、薬効を妨げるものを徹底的に調査した。紅茶や甘夏がキャンセルするので止めてもらった。現在、良好で経過観察中の症例です。

Dr のコメント [バイ・デジタルオーリングテストによる治療] この患者さんに有効と考えられる治療薬をスタンダード医学、東洋医学、民間の代替医学全てを考慮して検索し、BDORT による Virtual Drug Effect Test を行い、有効とされる薬剤を選択しました。また、従来に 1 日 3 回法ではなく、1 日 4 回法で薬効が長時間持続するようになり、生活パターンオーリングテストで、治療効果をキャンセルするものを見つけて、キャンセルするものを摂取しないようにしてもらい、腫瘍マーカーが低下し、CT の画像上の影も消失した症例です。

<特集> 第18回日本バイ・デジタルオーリングテスト医学会

(平成20年7月20日・21日 東京大学山上会館)

開会挨拶

大村恵昭先生 B.Sc., M.D., Sc.D., F.A.C.A., F.I.C.A.E.,
F.A.A.I.M.,F.R.S.M.,

Bi-Digital-O-Ring Test 創始者; 日本バイ・デジタルオーリング
テスト協会会長

18th Annual Meeting on the Bi-Digital O-Ring Test

Opening speech

Yoshiaki Omura B.Sc., M.D., Sc.D., F.A.C.A., F.I.C.A.E.,
F.A.A.I.M.,F.R.S.M.,



私が Bi-Digital O-Ring Test (OMURA, Y, 1977-2008.

以下 BDORT) に出会い、このように発展するまでには、本当に色々な方にお世話になってきました。その中で、BDORT を日本に広めてくださいました年をとられたある有名な先生が、ある時から体調がどんどん悪くなられ、私が日本に行った時、すぐに診察してほしいとのことで家に伺いました。

先生からお話を伺いますと、ある中国の薬をここ最近、通常の服用量よりも2倍近く飲んでいただくとのことでした。なぜ、そうされたのか事情を聞きますと、ある有名な中国の教授から効果があると云われた薬を飲んでも効果が現れなかった事と中国の漢方薬の中には同じ薬でも作られた場所により有効成分が異なり、少なくて効かないものもあるからだそうです。BDORT で測定しましたところ、その先生の適量は成人の通常量の半分で良かったのです。ただちに今までの1/4に薬の量を減らすと24時間以内に正常に近い状態にもどりました。つまりその先生が中国の教授から飲むようにと云われて飲んでいただいていた薬が適量の倍だった。よくならないので量が足りないと思って倍にした結果、適量の約4倍の中毒量の薬を飲まれて具合が悪くなっておられたのです。大人といっても、18歳~125歳までいるのに、現在、認められているたいいていの薬の量が20才の人も75才以上の人でも同じ量になっているものが多い。年をとって75才以上になると肝機能及び腎臓機能が衰えたりしますので、年をとった人でも、人によっては適量が通常量の半分という方もたくさんおられます。その理由は肝臓の解毒作用及び腎機能が減少するため、解毒されない量が増え、尿中に排出される量が減るからです。このような間違った量で老人に危険を与える可能性のある薬の量を認可されていることは、漢方薬だけでなく西洋医学で使う薬でも同じ事が通用している事は、一刻も早く多くの方に知ってもらい、改善すべきことです。

今まで医師・歯科医師・鍼灸師等を中心とした学会やセミナーを開き、BDORT について普及をしてまいりましたが、一定人数以上はなかなか思うように増えていないもどかしさとともに、一刻も早く一人でも多くの人にBDORT を活用してもらいたいと思っております。そうすれば、無駄な医療費も削減できるわけです。そこで、最近では、一般の方にBDORT を使い、自分の健康を守ることを中心に、普及に力を入れています。患者さんから医者へ広まり、医者がBDORT を勉強せざるを得なくなります。BDORT を勉強するのなら、最新の医学や科学の知識が無いと最善の効果が得られなくなりますので、そういった効果も望んでいます。どうか会員の先生方にも、患者さんにも、自分の健康を守るためのBDORT の普及にご協力いただくとともに、研究の成果を毎年、コロンビア大学で開かれる国際会議や日本の学会で、御発表いただき、BDORT の発展のために努力を入れて下さい。

<特集 1> 難治性疾患の診断と治療

進行癌・末期癌との穏やかな共存をめざして

加藤紘一先生 M.D., Cert. ORT-MD(3Dan) 医療法人相雲会 小野田病院院長

(第 18 回日本バイ・デジタルオーリングテスト医学会にて発表
平成 20 年 7 月 20 日・21 日 東京大学山上会館)

Diagnosis and treatment of obstinacy disease

~aiming at calm coexistence of the progress cancer and the terminal cancer.

Koichi Kato M.D., Cert. ORT-M.D.(3Dan), Director Onoda Hospital



難治性疾患と闘う中で、Bi-Digital O-Ring Test(OMURA,Y,1977-2008.以下 BDORT)は欠かすことのできない手法ですが、BDORT において+4以上と期待できる治療薬の反応であっても臨床上明らかな効果が現れず苦慮することも少なくありません。

今回は、実際に経験した中で、著効例と思われる症例を紹介したいと思います。

大村恵昭教授は、最近の研究の中で健康部と病巣部の Telomere 1 (TTAGGG) のバランスとその重要性を説いておられます。特に癌と闘っていくためには、正常細胞の Telomere を最適に高めながら、病巣部の癌の Parameter をゼロに、特に癌細胞分裂を抑制すべく Telomere 1 を 1 yg (BDORT Unit-以下省略) 未満に、癌遺伝子蛋白 Oncogene C-fos Ab2 や Integrin $\alpha 5\beta 1$ を 1 yg 未満に維持しておくことが望ましいといわれております。

今回これらの条件を満たし、病巣部の神経刺激伝達物質 Acetylcholine を $500\mu\text{g}$ 以上に増加させると共に、脳内ホルモンの活性化をも促し、かつシラントロと併用することによって、今まで以上に軽・重金属の排泄促進が期待できる Phytosin (ファイトシン) という物質を基にして生成された“活性水”をもちいての治験と、海藻のメカブのぬるぬる物質から抽出した糖鎖成分フコース (イムノナノフコース) を用いて、進行癌・末期癌と穏やかな共存をなしえている症例を報告します。

私が、癌と穏やかな共存をめざすために目指している生体管理目標は、今のところ、次の6つあります。すなわち、①正常細胞の Telomere を最適に癌細胞の Telomere 1 は 1 yg 以下に保つこと。正常細胞の Telomere を最適にすることで、体の総合力が非常に高まると感じています。②病巣部の癌のパラメーターを凍結させること。具体的には、Integrin $\alpha 5\beta 1$ 、8-OH-dG を 1 ng 未満に保つことです。③適合薬が力を発揮できるように、重金属 (特に水銀、アスベスト) の排泄する。④病巣部の Acetylcholine を高めて、組織の再生を期待する。⑤脳内ホルモン (Serotonin、GABA) の活性化。癌の方は心身が憂鬱になっている方が多く、より免疫力が低下しやすい為、このようなことも大切だと思います。⑥適合薬をキャンセルせず、Telomere を高めるため、良質な水を飲料水や料理水として利用する。

このようなことを活用することで、実際に、進行癌・末期癌の患者さんであっても癌と穏やかに共存できている症例をお見せしたいと思います。

86歳の男性で、進行性胃がん、前立腺にも癌の反応がありました。さらに、認知症の症状がありました。高齢でしたので、ご家族の方と相談したところ、そのままにしておいてくださいとのことでしたので、対処療法をしておりました。ところが、3ヶ月半経過したころから、倦怠感と、ものが食べられなくなり、患者さんとしてもつらい状況が続くようになりました。胃カメラをしましたところ、胃がんが大変進んでいました。フコースをだんだんと増やしていき、生体管理目標に一番近づいた、25ccを続けてもらい、さらに、足三里置鍼の200回刺激も行いました。フコースの良いところは、飲みやすいことです。この患者さんも喜んで飲んでいるようでした。しかし、5時間をすぎますと、生体管理目標からガクンと下がってしまいます。そこで、回数を1日5回と増やし、適用量であるフコース25ccと共に、足三里の刺激を続けました。50日後に、胃カメラを再度行いましたところ、見た目にもビラン等も目立たなくなり表面もすべすべし、患者さんも楽になったとの認識がありました。5か月目には、体重も増え、頭の毛が黒くなりました。ただし、Acetylcholineが低めでしたので、ファイトシン活性水を使用したところ、38 ngから640 ngまで上がりました。癌は治ってはいませんが、進行癌と上手く共存できている例ではないかと思えます。

次に、68歳の女性で25歳のお産のときに大量出血で輸血をし、C型肝炎、肝硬変、多発性肝臓癌へととなった患者さんの例を紹介します。症状は極度の疲労感、食欲不振でした。治療としては、抗がん剤と、継続して週2回フコース20ccを1日4回、途中から30ccに増やしました。足三里置鍼の200回刺激も行いました。しかし、この方はフコースが嫌いでなかなか言ったとおりに飲んでくださらず、効果が現れませんでした。そこで、ファイトシン活性水2ccを飲んでもらうと正常細胞、癌のパラメーターも理想値近くになり、脳内ホルモンもあがりました。しかし、3時間くらいたつと、減ってくるので1日5回ファイトシン活性水2cc、フコースを1日1回と共に、その都度、足三里置鍼200回刺激を継続しました。そうすると、食欲がでて、やる気もでて、農作業までできるようになりました。

これらの方は、癌が治っているわけではありませんが、よく食べられ、やる気も出て元気に日常生活を穏やかに送れるようになったことに意義があると考えています。

<特集 2>

環境汚染と「うつ」、自・他殺の社会的な増加について BDORT (OMURA) による診断と治療および画像 (写真) 診断所見 について

岡宗由先生 M.D., Ph.D., F.I.C.A.E, Cert. ORT-MD (3Dan)

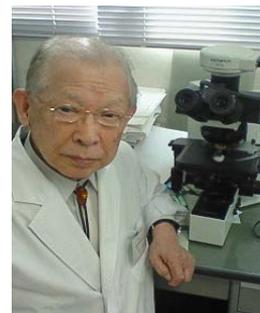
医療法人 敬和会 大分岡病院

(第 18 回日本バイ・デジタルオーリングテスト医学会にて発表 平成 20 年 7 月 20 日・21 日
東京大学山上会館)

Social increase in environmental pollution and "Depression" and the murder

Diagnosis, treatment, and image (photograph) diagnosis and observations by BDORT (OMURA)

Muneyoshi Oka M.D., Ph.D., F.I.C.A.E, Cert. ORT-MD(3Dan), Oita-Oka-Hospital



私は、“うつ”などの人間の異常行動は、環境汚染と密接な関係があることを度々報告してきました。本日は、このような環境汚染物質と密接な関係がある症例を、診断・治療・結果にまとめてご報告したいと思います。

<診断>Bi-Digital O-Ring Test(OMURA., 1977-2008; 以下 BDORT)による波動共鳴法を用い、客観性と再現性に注意を払いつつ、関係する各種の濃度標本 (RCS) を使用し診断しました。なお統合失調症については、ハロペリドール (セレネネース) の RCS を用い、生体のこの薬剤に対する必要性と必要量を計測し、性格・行動の異常度の有無を推測し投薬量を決定しました。

<治療>1 漢方薬による治療：漢方の「証」によって薬を選ぶのみでなく、選び出された薬剤を手掌にのせ更に BDORT により、免疫・血行・ホルモンなどの RCS の反応において生体情報が好転することを確認したうえで、その使用を決定します。漢方薬は非常にマイルドな薬というイメージがありますが、合っていない漢方薬をのむと、免疫力が下がってしまいます。

2 鍼治療：(1) 異常経絡の診断：新しい五行の色体表 (各臓器の組織標本との共鳴法により新しく造られたもの M-OKA) を使用し、BDORT による波動共鳴法により、異常経絡を正確に診断し決定します。六部定位の脈診は、習熟に長い年月を要し、客観性・再現性の面で問題が残っていると思われます。(2) 経絡の流注の方向を確認する。(3) 流注の経絡上に補と瀉の反応穴を求める。(4) 経絡の上流に瀉穴・下流に補穴をとる。(5) 補・瀉の情報が注入された、皮内鍼・円皮鍼・金粒・銀粒などをそれぞれの経穴に置く。(6) 治療後、必ず経絡の異常や症状について、その消去を確認する。

3 化学的薬剤：副作用のない有効な薬剤は、BDORT を用い決定します。

<結果> 多くの愁訴があるにも関わらず、西洋医学的な臨床検査データではほとん

ど異常所見が見られないことがあります。しかし、BDORT を使えば、次のような、多彩な心身の異常情報を多数発見することができます。(1) 高濃度に体内に蓄積された環境汚染物質(ダイオキシン、ホルマリン、メチル水銀、アスベスト、カドミウム、ビスフェノール A、水銀、Pb、アルミニウムなど)(2) 脳内神経伝達物質(ドーパミン、セロトニン、ギャバなど)の著しい減少(3) 末梢循環障害(PGI₂の減少、TXB₂の増加)(4) このほか、多くの免疫・ホルモン系物質の著しい異常の検出。(5) 鍼の経絡治療は、正確に使えば、即効的な著効を得ることができます。環境汚染では、異常を示す経絡は、その殆どが右側の肺経でした。この肺経上に正しい、補・瀉を行えば、環境物質はただちに尿中(膀胱)に排除され、異常を示した RCS は即時的に改善されます。特に、ドーパミン、セロトニン、ギャバ、PGI₂の上昇、TXB₂の減少など、即効的に改善され、深刻な「うつ」や冷えの症状が解消されます。

近年、ネガティブ思考や親子の殺傷事件など、「うつ」・凶暴な事件が増え続けています。しかも、特に社会の知的指導層の人々の中にも異常な行動がみられるようになっていることは由々しき問題です。

大村恵昭教授は画像(写真)の中には、フォトン(光子)により集積された多くの波動情報が蓄積されており、周波の共鳴現象により、写真の中からも、多くの情報を引き出すことが可能であることを発見されました。私も BDORT を使い、このことを追試し、画像内の情報を測定しています。

たとえば、気象衛星による天気図などを、BDORT でチェックしてみると、モンゴルなどはとても綺麗ですが、中国の環境汚染物質の反応は高度を示します。その汚染物質が、雨や風(黄砂)にのって、日本へと運ばれています。特に、中国に上陸した台風の後、日本に降った雨には大量のアスベストの反応が見られます。環境汚染物質による人体の環境障害については、近年強く指摘されてはいますが、効果的な診断も治療法も未だ十分ではないようです。

私はこれまで「うつ」から「殺人」に至るまでの社会的な人間の異常行動について、継続して報告してきましたが、残念ながら、現在のところ、診断・治療の面で、臨床的に十分に対処するに至っておらず、その多くは、原因不明のまま、心療内科的または精神科的な疾患として対処療法的に多剤投与が行われ、薬漬けの状態、長い年月にわたり、苦しんでいる人々が多数見られます。

確かに、最近の西洋医学の進歩は素晴らしい一面もありますが、将来に夢を託する未完の医学であることも確かです。一方、東洋医学的な治療は、長年にわたる体験と叡智により生命の力、自己治癒力を活性化し、これにより一定のすぐれた治療効果をあげていることも注目すべきことです。客観性、再現性を常に確認しつつ、「嘘か、本当か」権威にすぎることなく、常に自己責任をもって検証し、東西両医学のすぐれた点を統合的に結合させ、より実効性のある診断と治療に取り組んでいく必要のあることを痛感しています。

Sick House Syndrome が基礎にあると考えられた帯状疱疹後の難治性顔面皮膚湿疹の 1 症例

赤堀英明先生 M.D., Cert. ORT-MD (1Dan)

あさひ総合病院

One case of obstinacy face skin eczema after zoster caused by Sick House Syndrome

Hideaki Akahori M.D., Cert. ORT-MD(1Dan)

Asahi General Hospital



私のおります病院は、総合病院ですので、こられる患者さんのほとんどは、他の科で、診察を受けても原因が分からないという方がほとんどです。そのような方を Bi-Digital O-Ring Test(OMURA,Y,1977-2008.以下 BDORT)を用いて、日々診療しています。本日は、最近増加している、シックハウスが症状の原因にあると考えられる症例をご紹介しますと思います。

シックハウスとは、建物、住居内の空気汚染に由来する健康障害の総称です。症状は目、鼻、喉、皮膚の症状や、頭痛、耳鳴り等、不定愁訴が現れます。原因は、建材、家具、カーテン、絨毯、日用生活品（化粧品、タバコ、防虫剤等）等から発する化学物質、ダニ・カビ等です。また、殺虫剤でも同様の症状を引き起こすことがあり、呼吸障害にもつながる恐れがありますから、注意が必要です。

シックハウス症候群は、1970年代から、急激に増加していますが、どうしてこういうことが起こってきたかという、最近の家の造り方にあります。最近の家は断熱、高気密構造の家が多く、壁や床材等から揮発した化学物質が籠ってしまう環境が大きな原因となっていると言えます。

それでは、症例を紹介したいと思います。25歳の男性で、2007年初めごろより鼻の下に発疹がありました。2007年3月19日から、口唇周囲の帯状疱疹で通院治療を行い、一度は改善しましたが、2007年3月31日全身の発疹が出現し、1週間入院治療をされました。

退院後も鼻の下や顔面の発疹を繰り返し、消えることはなく、口唇周囲はいつもピリピリしているとのことで、2008年1月15日当科を受診されました。

初診の所見としては、鼻、口を中心に VZV (Varicella Zoster Virus) 330ng (BDORT Unit 以下同様) の集積がみとめられ、その周外に HHV7 (Human herpes type 7) 100ng の集積、さらに外側に Hg 50mg の集積が認められました。

そこで、重金属の蓄積と VZV、HHV7 の集積を改善するために、抗ウイルス作用のある漢方薬、ユーカリ茶、藍錠剤、エパデールで治療を開始しました。複数のウイルス感染が見られる場合は、藍錠剤が効果的な場合が多くあります。また、ユーカリ茶は、重金属の排出の際に用います。ユーカリ茶はコストも大変安く済みますので便利ですが、体質に合わない人が居られますので、必ず BDORT にて肝臓で適合性のチェックと量の測定を行ってから、処方します。

2008年2月14日の再診では、体幹部正中線上の胸骨部、臍上部、四肢にホルムア

ルデヒド 330 μ g、ビスフェノール A 200 μ g の集積が認められました。そこで、シックハウス症候群が基礎疾患にあると考え、解毒系の漢方等の処方に変更しました。その後、ビスフェノール A、ホルマリンともに著しく減少し、皮膚の症状も、改善しました。

BDORT で調べると、シックハウス症候群の方は、ホルマリンやビスフェノール A 等の蓄積が認められます。同時に水銀、鉛、アルミニウムの蓄積も認められることが多くあります。

また、シックハウス症候群では HSV(Herpes Simplex Virus)、CMV(Cytomegalovirus)、VZV 等のウイルス反応が局所に認められます。特にビスフェノール A やホルマリンは、上肢の肘から抹消、下肢の膝から抹消に蓄積が多く見られます。症状としては局所的に赤色疹、掻痒感、ピリピリした痛み等の皮膚症状を訴えられることが多く、時にアトピー症状を示すこともあります。

シックハウス症候群の方のもう一つの特徴としては、体の冷えの強い方が多いということです。体が冷えている方は、暑がりであったりもしますので、自覚がない場合が多いですが、診療をしていく中で、体の冷えに気づくことが多くあります。

治療としては、金属の排出と漢方の解毒薬系剤と下剤の併用が効果的です。金属の排出には、中国パセリ、ユーカリ茶を使用します。解毒する方法は、結局のところ尿・便・汗のいずれかで排出するしかない訳ですから、下剤の併用が効果的だということです。

このように、日ごろの診療において、BDORT は、病気の原因の究明、診断の決定、

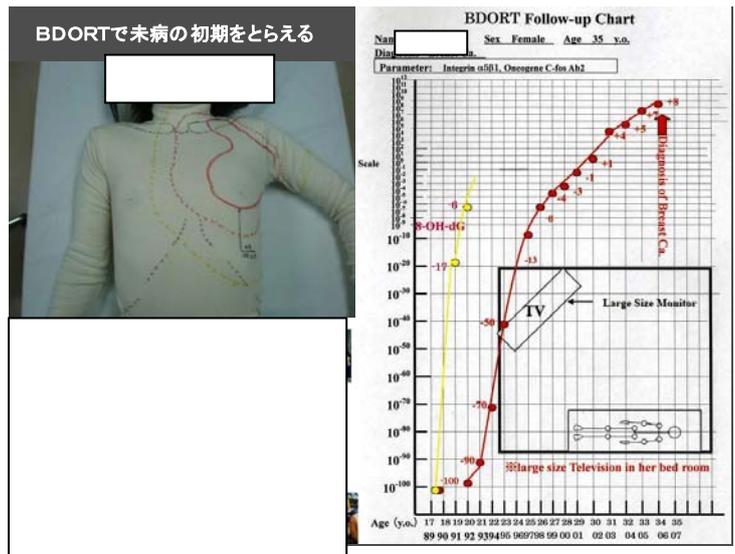
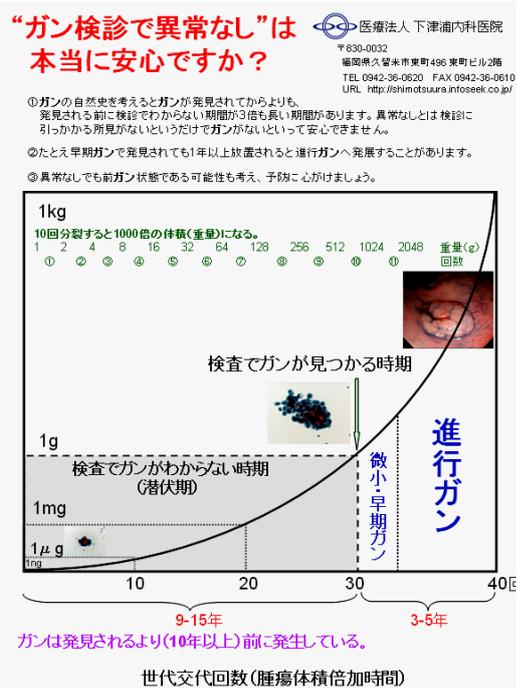
治療の決定と、すべてにおいて大変役に立っています

<連載コラム>O-リングテストのABC

日本バイ・デジタル O-リングテスト協会副会長 下津浦 康裕
 医療法人 下津浦内科医院 院長 久留米市東町 496 TEL:0942-36-0620

NY 国際学会での発表報告

2008 年 11 月にニューヨークのコロンビア大学で第 8 回バイ・デジタル O-リングテスト国際学会が開催され、もちろん私も発表をしてみたいと思いましたが、その発表を簡潔にですが報告したいと思います。発表タイトルは「Electro-Magnetic Field Circumstances from the Viewpoint of the Retrospective Study of the Cancer Initiation of Breast Cancer Patients」で簡単に言えば電磁波を発する電子機器がいかにか人体に悪影響を及ぼして、発癌の大きな要因になっているかということ、乳癌の患者さんに対して調査し、報告しました。このコラムでも私の多くの発表でも電磁波での健康障害は多く取り上げています。今回は発癌された人の寝室にどれだけ電化製品があったかということ、患者さんに対して寝室の調査を行い、癌の自然史（癌細胞の体積増加時間経過）と照らし合わせて時間をさかのぼり、その癌発症初期に何か生活環境（特に寝室）に変化がなかったかを調べました。



患者さんにアルバム等から、1年につき1枚ずつ、発癌から15年～20年にさかのぼって、写真を持参してもらい、いつ頃、遺伝子が傷ついて、発癌因子となる8-OH-dGが出現し、また、ガンに関連したパラメーターであるOncogene C-fos Ab2やIntegrin α5β1が、いつ出現するかを検討しました。

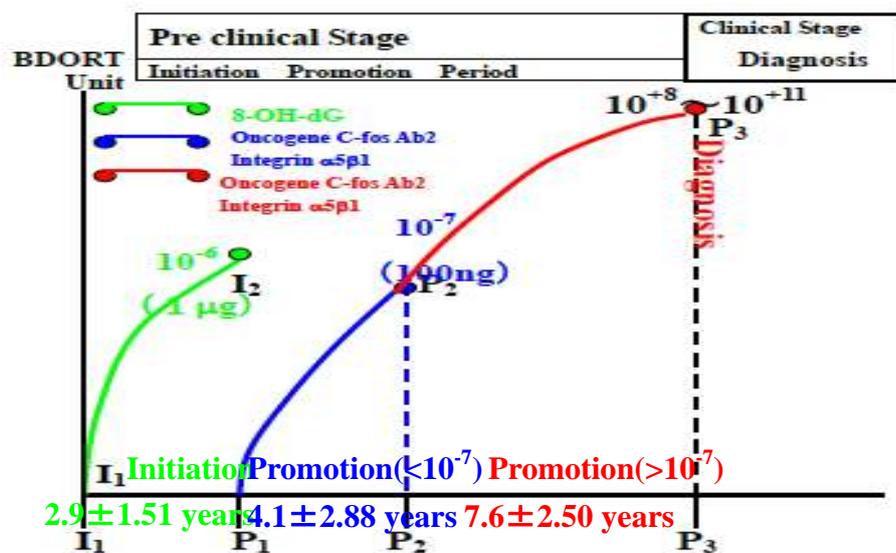
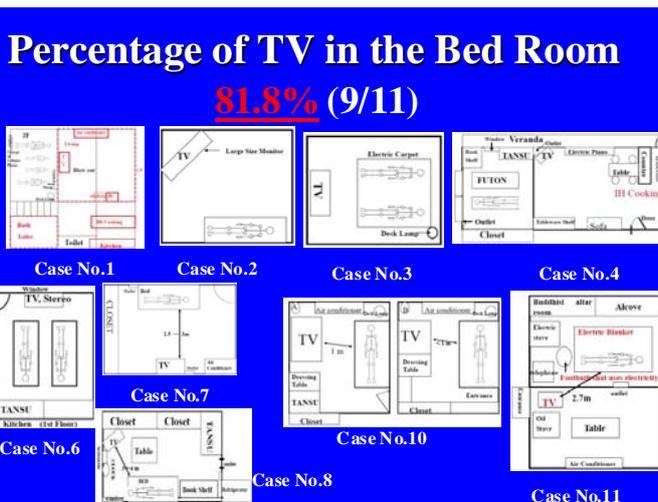
その結果、発症時期に引越したり、テレビを設置したりと環境の変化が多く見られました。そして現在も寝室のベッド近くにテレビが置いてある方も多いです。加えて発症者の中にIHクッキングヒーターを使用している人が多く、発症時期や癌成長に係わっていることがあるようです。中には、電気カーペットを1年中、敷いたままの人もありました。スイッチは切っけていても、コンセントにさしたままでは、電磁波に曝露されていることとなります。

EMF Circumstances in the Bed Room

No.	EMF Source	Others
No. 1	TV, IH	
2	TV	
3	TV	Transmitter Tower
4	TV, IH	
5		Electric Heated Carpet
6	TV	Stereo
7	TV, IH	
8	TV	
9		On the Garage
10	TV	
11	TV	Electric Blanket

る結果になりました。他の2人の中、1人は1年中電気カーペットを敷いていますし、もう1人は、車庫の上に寝ていて、車や車庫の電磁波の影響を受け続けていたと推測されます。この研究の結論として、遺伝子が傷つき始めたイニシエーションの時期から14年から17年くらいで発癌するケースが多く、Oncogene C-fos Ab2 や Integrin $\alpha 5 \beta 1$ が出現するプロモーションの時期から9年~15年で発癌する可能性が高いことがわかりました。何の予防のために、薬やサプリメントを飲まないで、放置していた場合、何年くらいでガンになるということが予測できるようになりました。

調査した11人中9人が、寝室にTVをおいてい



が癌発症の原因や癌成長の促進に大きく関連しているのは疑いようが無いのではないのでしょうか。みなさんには、オーリングテストでガンが西洋医学的に発見される前に、未病のうちに、危険性が指摘されたら、電磁波対策やサプリメント等による予防に取り組まれることをお勧めします。

また、別な機会に詳しく述べますが、漢方薬等のお薬を飲む時は、決して、冷水で飲むに、お湯で飲むように心がけてください。(※冷水で飲むと、期待する薬効があらわれず、薬を飲んででもなかなか治らないです。) 携帯電話やパソコン等の電磁波に曝露されたまま薬を飲むことも止めてください。(薬が治療目的の所にいきません。)

この事実と関連して言えることは、現在の日本人の癌発症は3人に2人といわれています。こんなにも高発症率である癌の原因が珍しいものや聞いたことの無いものはずがないということです。もちろん癌の原因は数多く、化学物質など挙げ出せば限りなくあるのですが、現在の便利な生活環境を創っている電化製品による電磁波

<連載> 仙人伝説

林原グループ代表 林原 健

<林原健 プロフィール> 1942年（昭和17年）岡山生まれ。慶應義塾大学法学部卒。1961年に（株）林原の代表取締役就任、研究開発型企業への転換を図る。現在、林原グループ13社のうち5社の代表取締役を務める。1997年藍綬褒章受賞。

0-リングテストにもっとプラスしてもらいたい事

今日まで大村先生の考え方と、ORTのすばらしさについて述べさせていただきました。今回は、私が常日頃から感じていることを書かせていただきます。大学病院の全ての先生は人間というのは精神と肉体から出来ていると口では言われますが、精神の存在を確認する手段をもたない為に、実際は肉体しか考えない人達がほとんどです。特に精神科や心療内科の先生まで、このような考え方は変わりません。これらの科はもともと全て外科と内科に所属していて、手術や内科の治療による副作用を軽減させるのが目的のためやむを得ない面もありますが、外来患者の6~7割が原因不明というレッテルを付けて処理されている現状は異常です。世の中の動きがスピードアップされ複雑になるにつれて、もっともっと増えてくることは避けることができません。0-リングテストにより精神（心）の存在を簡単に確認することができ、また数式化することが可能です。心療内科の外来に来る人々の症状の程度と、心の遊離度はほぼ比例しています。あまりに精神の遊離がひどい場合は薬が効きにくくなります。したがって、まず先に体と精神をぴったり合わせてから投薬すれば、治療効果が格段に上がります。

強度のストレスにより声が出せなくなる、あるいは耳が聞こえなくなるといった症例があり、治るまでに1年以上の歳月を要しています。このケースについても、ストレスがあまりにも強いと肉体はその場から大きく移動出来ず、精神だけが肉体から遊離します。しかも最も遠くに遊離すると、あのような現象になります。その間、遊離の度合いにより不眠や、動作に障害が起きる等、様々な現象が出てきます。もしこの理屈が分かっていたら、1分もあれば元に戻すことができます。このような経験をした人たちが治った多くの症例を聞いていますので、私も自信を持って言えます。もちろんこれには薬は不要です。

0-リングテスト協会会員の先生だけでも精神の存在を認め、治療の方向に生かす考え方になって下されば、0-リングテストの普及度は桁違いに上がっていくと思います。そうなることを心より願っています。

日本 BDORT 協会ニュース

平成 21 年 1 月からの予定

※元気セミナー <参加費無料>

場所：ORT 生命科学研究所 〒830-0032 福岡県久留米市東町 496

日時：平成 21 年 2 月 7 日 (土) 4 月 4 日 (土) 5 月 2 日 (土) 6 月 6 日 (土) 8 月 1 日 (土)
9 月 5 日 (土) 10 月 3 日 (土) 11 月 7 日 (土) 12 月 5 日 (土)

12 時 30 分から 13 時 30 分

講師：下津浦康裕先生 (日本 BDORT 協会副会長、下津浦内科院長)

※ 3 月 7 日 (土) 松本征夫先生講演「シルクロード探遊」

参加資格：ORT 友の会会員 (要予約：FAX:0942(36)1961 or seimei@bdort.net)

自分の身を守るためにオーリングテストを御家族で、どのように活用したり、身近な疾病について患者様を対象にわかりやすく説明していきます。

◎大村恵昭先生主催のニューヨークでの 3 日間の講習会の予定

平成 21 年 1 月 16 日 (金) ~ 18 日 (日) 2 月 20 日 (金) ~ 22 日 (日) 3 月 27 日 (金) ~ 29 日 (日) 5 月 15 日 (金) ~ 17 日 (日) 6 月 12 日 (金) ~ 14 日 (日)

NY のマンハッタンにある Holiday inn Midtown で毎月行われています。(参加すると認定試験に必要な時間が加算されます。) (<http://www.icaet.org/index.html>)

◎ **BDORT College** 2009 年 4 月 25 日 (土) ~ 28 日 (火) 対象：日本 BDORT 医学会会員
会場：ORT 生命科学研究所

Part 1：久留米セミナー 4 月 25 日 (土) ~ 26 日 (日)

Part 2：大村恵昭教授による個別指導 (患者診察及び研究によるスペシャリストの養成)

◎ **第 19 回日本バイ・デジタルオーリングテスト医学会** 平成 21 年 7 月 4 日 (土) ~ 5 日 (日)
会場：東京大学山上会館 対象：日本 BDORT 協会会員 (医師・歯科医師・獣医師・鍼灸師・薬剤師・看護師)

◎ **市民公開講座** 平成 21 年 7 月 5 日 (日) 14:00~16:30 参加資格：ORT 友の会会員

ORT 友の会会員の皆様へ

ORT 協会会員の先生の認定医施設は、ホームページに掲載しています。(URL: <http://www.bdort.net/as/nintei.htm>) また、ORT 友の会会報の全内容も掲載しております。

お問い合わせ先：日本バイ・デジタルオーリングテスト協会

〒830-0032 福岡県久留米市東町 496 TEL:0942-38-4181 FAX:0942-37-4131

E-mail: tomo@bdort.net URL:<友の会><http://www.bdort.net/fr/index.htm>



ご購入については、かかりつけの協会の先生方にご相談下さい。

業務内容 ● ORT 認定健康食品開発・研究

● ORT 研究用教材開発

● 過去の市民公開講座の DVD も販売中。

◎新商品の紹介



ニュートライザー

● 携帯電話やパソコン、テレビ、電気掃除機、電子レンジ等に貼るシール

● 価格：3600 円 (税込) 3 枚組



電場チェッカー New (高感度)

● 電場をキャッチしたら、ブザーと赤いランプが点滅します。従来のものよりオーリングテストの結果に近く、高感度です。電池の交換も簡単です。寝室や居間の電磁波環境をチェックしてみてください。● 価格：4200 円 (税込)

◎オーリングのわ（今回は、昨年NYの国際学会に参加された先生方の感想を掲載致します。）

◎ 第24回国際鍼・電気治療学会に参加して 高椋 洋（認定鍼灸師）

2008年11月1日（土）から4日間、ニューヨークのコロンビア大学で開催されました「第24回国際鍼・電気治療学会」に参加してきました。初めての国際学会、初めてのニューヨークということでやや緊張気味で臨みました。全体での参加者は約50名で、日本からは15人程が参加していたと思われます。日本人の発表者は7名で、皆さん上手な英語で発表され外国の方には内容も含めて大変好評でした、さすがです。一方私といえば、中学生以下のヒアリング能力ですから、パワーポイントによる画像とその場の雰囲気や発表内容を理解する事に腐心しましたが、悲しいかなあまり理解できなかったと思います。そのうえ時差ぼけによる睡魔・疲労感が何度もやって来て、ついつい船を漕ぎました。しかし何と言っても驚いたのは、当学会のスケジュールでしょう。最初の3日間は朝8時半から夜の9時半までという妥協の無い日程です。「何、これ！こんなにみっちりやるの？」・・・そうです、本当にやりました、夜は10時頃まで。ホテルに戻るのが夜の10時半、後はシャワーを浴びて寝るだけ。恐れ入りましたの一言です。スタッフの方々はもっと厳しかったのではないかと思います。これも大村先生の研究に対する熱心さの現れと感じました。



発表の様子



後ろの机には、配られたニガウリがあります

私は、最後の日は参加出来ませんでしたが、無事に学会が終了との事で一安心しております。最後にニューヨークでの学会を開催するにあたり、会場の設営・運営からホテルの手配等まで、滞りなく面倒を見ていただいた大村先生を始めとしオーリング協会のスタッフの皆様方に感謝をいたします。ありがとうございました。

◎ 第24回国際鍼・電気治療学会に参加して 藤井佳朗（認定歯科医）

11月1日から4日までニューヨーク、コロンビア大学で、24th International Symposium on Acupuncture & Electro-therapeutics and Related Fields(第24回国際鍼・電気治療学会、第8回バイ・デジタルオーリングテスト国際シンポジウム)が開催され参加してきた。伊丹空港から成田経由で一路ニューヨーク、ケネディー空港まで約14時間の旅路である。昨年時差ぼけに悩まされた経験から、今年は1日前から睡眠を3時間程度に抑え、機内では現地時間の朝まで食事をとらなかったが、結果的にこれは効果的であることがわかった。さて、エコノミークラスに長時間耐えてケネディー空港では、どこに行くのかと聞いてくる輩がいる。これは悪質な白タクの勧誘で、乗ると正規料金の数倍から十倍程度の運賃を請求されるらしい。正規のタクシーは黄色で、マンハッタンまでは45ドル均一で、チップを1割ほど加えておけばいい。今回はチップ込みで49ドルと言われたので50ドルほど支払っておいた。ニューヨークは寒いと思っていたが、快適な気候で、天気もよく昼間はコートも必要なかった。われわれの日ごろの行いがいいのか、この天候は学会開催の4日間続いた。会場に到着すると、1日目の午前中のセッションが終了した直後であった。会場には60名くらいの参加者がいて、昨年より盛況という感じを受けた。私の患者さんで、NYで語学研修中の産婦人科の女医さんも参加していた。早速、大村先生に挨拶したところ、いきなりビターメロンがクラミディアにいいので2切れ食べろと言われ、会場に置いてあるものを2切れ食べたがこれが苦い！メロンだからおいしいのかと思いきや苦瓜とかゴーヤの仲間、これを生で食べると結構きつい。他の参加者もいわゆる苦虫を噛んだような顔をしながらほおぼっていた。不思議なもので3日目くらいから癖になってきたとおいしそうに食べだす参加者もいたが、私は最後まで好きになれなかった。たしか去年は、リンゴとバナナの組み合わせに中国パセリを

少し加えたものはやっていたが、今年はこれらしい。さて、午後のセッションから発表を聞いていたが、参加者のうち日本人が2割程度という感じを受けた（スタッフに日本人が多いせいもある）。また中国人や日系ブラジル人も多く半数くらいが東洋系という感じだった。学会の進行状況だが、一応プログラムはあるのだが、予定通りにすすまないし、大村先生の講演が横道にそれていくのもいつも通り。座長はいるが副座長がいないとか、こうした雰囲気が本音が話せていいという研究者もいるが、私はもっとシビアにしたほうがいいと思う。この日のセッションでは、日本からは大畑先生の報告を含め、携帯電話の危険性を訴えるものが多かったのが印象的だった。この日は赤堀先生の慢性頭痛の発表もあった。赤堀先生とはホテルで事実上の同部屋で（一応シングル2部屋だが1つのトイレをシェアする形になっており、トイレを経由して隣の部屋に行けるという変な部屋）、オーリングテストのあり方など、深夜まで話し合いをした。最終日を除き、終了がプログラム上は9時半になっているが実際には10時を過ぎ、ホテルに帰るのは11時過ぎという状態が続いた。2日目は、午後から日本人みんなでNYを観光しようということになり、学会サボってまずはセントラルパークでニューヨークマラソンのゴールシーンを見に行っただけ。フルマラソンを完走した選手たちとそれを応援する人たちに元気をもらったあと、自由の女神を見に行っただけ。島に渡る船で持ち物検査があり（はっきりいって空港より厳しい）、私が持参した咬合調整用のエンジンが引っかかってしまった。歯科医師であることを示して事なきを得、日本料理店で夕食後、夜のセッションに復帰。3日目の午後のセッションで私が講演とデモ治療を行ったが、結構、好評だった。この日は、後出口先生も発表された。興味ある発表が多かったが3日目で参加者みんなお疲れモード。4日目は山口先生、秋岡先生など日本の研究者の発表を含め、最終日のラストスパート。わたくし事だが、咬合調整希望者が多く3、4両日で15人くらいの咬合調整を行うはめになり、まともに昼食もとらずに治療を続けた。最終日終了後、NYのフランス料理店で最後の夜を楽しみ帰路についた。アメリカで認められればそれまで反対していた日本人がころっと姿勢を変えるのは承知の如し。いいデータを持っている日本の研究者はもっとアメリカで発表すべきである。その登竜門としてこの学会はいいと思う。私はオーリングテストは次の世代に伝えるべき人類の宝と思っている。オーリングという井戸を掘った大村先生、またその井戸から歯科の方に水を引いてくれた福岡先生には感謝している。これから我々中堅若手がいかに次の世代に伝えていくか、正念場と思っている。

◎ 第24回国際鍼・電気治療学会に参加して 大石恒子（認定歯科医）

ニューヨークで開催された第8回BDORT国際シンポジウムに参加してきました。外国に行く一人旅は初めてで、コロンビア大学に、ちゃんと着けるだろうかと、ドキドキしながら、日本を出発しました。13時間の空の旅ののち、無事、UFJ空港に着き、タクシーで、コロンビア大学近くの寮のような、インターナショナルハウスにたどりつくことができました。コロンビア大学は広いキャンパスに、歴史のありそうな立派な建物も多く、かわいいリスもいます。学会は、アメリカ合衆国各地、日本、中国、ブラジル、イスタンブールなどの様々な国からの参加者があり、多くの発表がなされました。和やかな、フレンドリーな感じの会場には、クラミジアに効くというゴーヤが、配られて、Oリングの学会は、さすがに一味違うと感心してしまいました。学会は、午前、午後、夜の部とあり、ハードなスケジュールでしたが、昼食に、大村先生おすすめのきのこのピザをいただいたり、大村先生が、シラントロが、重金属を排出することを発見されたきっかけになったという、ベトナム料理の店に皆で出かけたりしたのも良い思い出になりました。学会の合間を縫って、皆で自由の女神を見に行ったり、ニューヨークマラソンのゴールを見にセントラルパークを散歩したり、ロックフェラーセンターの中からの出口がわからなくなり、いろいろな国の人たちと一緒に、集団で迷子になったりと、初めての楽しい経験もたくさんさせていただきました。ちょうど学会が終わった夜に、大統領選挙の結果が出て、街中のあちらこちらで、人々が盛り上がっているのが印象的でした。かえってみたテレビのオバマ氏の歴史的なすばらしい演説にも感動しました。学会に参加して、又、改めて、ORTの応用範囲の広さ、その可能性の大きさに、認識を新たにしました。まだまだ、様々なことに応用できそうな気がします。これからはもっとたくさんの人にORTが広まって、多くの分野で研究がなされ、この会がもっと世界の多くの人々の役に立てたら、世界が変わるのではないかと期待しています。私自身も、もっと研鑽を積んで、ぜひ、また、出席させていただきたいと思っています。細やかにお世話をしていただいた、大村先生はじめ、生命研、ほかの皆さんに、深く感謝いたします。どうもありがとうございました。

◎ O-リングテスト創始者大村恵昭教授のニューヨークにおける最近の研究について

すべての薬剤には必ず各個人に特有の適量というものがある、適量より多くやると、かえってマイナスの治療効果になることが多いので、optimal dose, optimal interval が非常に重要になる。リンゴ 1.5 個とバナナ 2 本を 1 日 4 回食べても治療効果はあっても、効果の持続時間が比較的短いため、食べ過ぎによる中毒効果は少なく、効果的で、安全な治療法と言える。しかし、人によっては 1 回にリンゴ 1 個半とバナナを 2 本を 1 日に 4~5 回食べるのは大変でしたが Bitter Melon を併用する事により問題は解決しました。又 Bitter Melon は冬には手に入れにくいのも、よい粉末を約 5.5g 飲むと正常細胞のテロメアが 500~600ng に増えます。但し、粉末の capsule として売られている物のほとんどは適量を飲んでも正常細胞のテロメアは最大 200~250ng しか増えず、それ以上飲むとテロメアが減少します。パイ・デジタルO-リングテストを用いると、血液検査や西洋医学的な検査よりも迅速に、診断・治療ができる。また、有効な薬剤やその組み合わせ、また、その適量をチェックして、治療効果を推測することができる方法なので、その有用性は非常に高い。さらに Selective Drug Uptake Enhancement Method を用いて、病巣に、選択的に治療薬剤を到達させることができるので、副作用が少なく、安全で、効果的に治療ができるというメリットがある。また、このようなリンゴ、バナナ、Bitter Melon、シラントロを用いた、効果的で安全に正常組織のテロメアを 500~600ng (BDORT Units) に上昇させ、4 時間毎に同じ量を食べる事により、その効果を持続させ、癌のテロメアをゼロ近くに減少させることにより、寝ている時間の半以下は、安全で簡単に Anti-Aging と Anti-Cancer 効果、Anti-Alzheimer's Disease effect, Anti-infection effect 及び Anti-obesity effects を得る事が出来ます。O-リングテストで正常組織のテロメアを 500~600 ng (BDORT Units) に上昇させても、O-リングテストでマイナスの衣類を身につけていると正常組織のテロメアが 1yg 以下に下がってしまいますので、着ているもの、身につけているものも重要です。それ以外にも健康や長生きの指標として用いている「テロメア」数値を上げる物の研究で、正常細胞のテロメアを増やす良い「水」や「食べ物」、「サプリメント」などを多く研究発見してきました。私が世界の名水と呼ばれている所に行き集めた水で正常細胞のテロメアを 100cc 当たり 50ng 以上増やすものの有効成分を分析してもらい比較して林原生物化学研究所との共同研究の結果、100cc の水で正常組織のテロメアを 300ng 以上増やすことのできる「Miracle Water」を作る事にも成功しています。

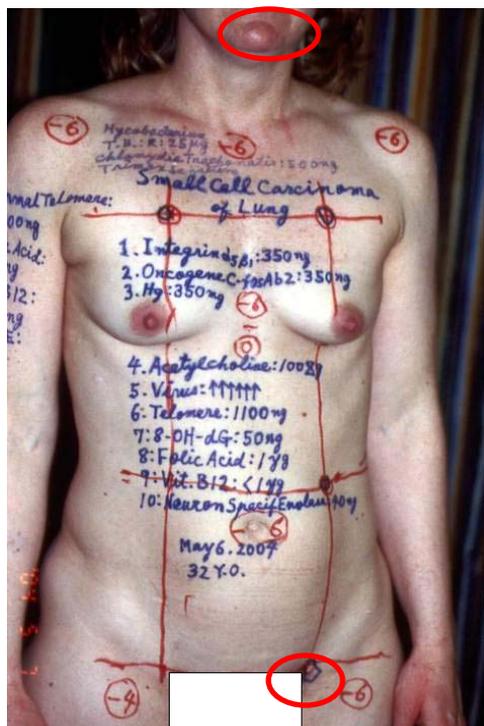
研究論文はもちろん昨年出版した「O-リングテストスーパーヘルスレッシン」にも挙げている赤いリンゴ・黄色いバナナや赤い水瓜などは果物の代表です。赤いリンゴ 1 個(皮を取って食べる)の出来る果実は 130-170 g)を食べると正常細胞のテロメアは最高約 150ng ~200ng (BDORT units) (赤いリンゴの果実は 100 g で正常組織のテロメアが 125ng 増え、52Kcal のエネルギーが得られます)、黄色いバナナ 1 本約 100g は 89Kcal の Energy があり、100g を食べると正常組織のテロメアが 75ng (BDORT units) 増え、赤い水瓜 100g は 59Kcal の Energy があり、正常組織のテロメアが 75ng (BDORT units) 増えます。ニューヨークでは「Bitter Melon ビターメロン」(にがいメロン)と呼ばれ、沖縄では一般的に「ゴーヤ」として知られ、スープなどに入れて食べていますが、我々の実験では果実の部分を良く洗い、50 グラムを生のまま良く噛んで食べると正常細胞のテロメアが 1 yg (=10⁻²⁴g)と 非常に低下していても 500ng 以上に増え、人によっては 600ng BDORT units まで上昇し、癌のテロメアが 0 近くまで下がり分裂できなくなるため、癌の活動を抑える事が出来るが、効果を持続させるためには少なくとも 3~4 時間ごとに食べる必要があります。Bitter Melon 100 gram は 17Kcal の Energy がある。正常細胞のテロメアが 500ng 以上になると脳循環、心臓、膵臓その他の血液循環が非常に改善されるだけでなく、大量の細菌 (Mycobacterium TB や Chlamydia Trachomatis)、ウィルス (ヘルペスや CMV ; HHV6 等)、ファンガス、水銀、鉛、アスベスト、アルミニウムその他の有害物質が尿中に大量排出されている事が、我々の最近の研究の結果わかってきました。又、同じ様な事が DHEA の適量 1 回飲んだ時、Astragalus の root extract の適量を 1 回飲んだ時及び(+) Solar Energy Stored Paper を当てた時にも起こる事がわかってきました。そのためビターメロンを持続して毎日 4~5 回を食べていると Alzheimer 氏病・心臓の病気・糖尿病・高血圧、Obesity 等に非常に有効であることが我々の最近の研究の結果わかってきました。但し注意しなければならない事は体の表面に O-リングテスト (-) の強いものが触れていると正常細胞のテロメアはあまり上昇せず、したがってガン細胞のテロメアも下がりにません。これを防ぐには必ず O-リングテスト (+) の下着、靴下、眼鏡、腕時計、飲み物や食べ物が (+) であることを確かめる必要があります。携帯電話から出ている強く高い周波数の電磁波が身体に放射され

ている時も同じ問題が起きるので電磁波を減少させる、日本でも ORT 生命科学研究所を通じて、手に入るようになった、アメリカで一番使われている Aulterra Neutralizer のようなものを貼り付けて Protect する必要があります。

Bitter Melon や DHEA 及び Astragalus で正常細胞のテロメアを理想的に 500~600ng に増えていたのが、1yg 以下に低下またはキャンセルさせる事の出来るものには、次のような物があります。タバコ、体を非常に低温度にさらされた時、コーヒー、Green Tea、ニンニク、金柑、ザクロ、ニラ、ネギ、玉ネギ、納豆、赤や緑のとうがらし、薬では高血圧剤特に Thiazid 系の薬、抗-コレステロール薬や抗-高脂質薬、一般によく使われているタイラノール、アスピリンのような Non-steroidal anti-inflammatory drugs (NSAID) 等があります。コーヒーの多くはティーカップに1杯飲むと正常組織のテロメアが 1yg くらいに低下し、癌のテロメアを増やし、もとにもどるのに4時間くらいかかります。但し、ポルトガルのデルタコーヒーは例外で正常組織のテロメアが増えます。Green Tea の中にもテロメアを低下させるものが多いが1時間で元にもどるものが多い。日本の寿司屋で使っている Green Tea の大部分は正常細胞のテロメアが増えるものが多い。アストラガルス (学名: Astragalus membranaceus、英名: (Astragalus)、和名: 黄耆 (オオギ)、科名: マメ科、(アメリカで 1cap 200~400mg のものが一部のドラッグストアで販売されているが、日本では販売されていない。)) の適量は、BDORT で調べると、一般の成人では 100mg~175mg が適量です。適量は1人ひとり異なるので、O-リングテストで調べる必要があります。Astragalus の根から抽出した約 70% of Polysaccharides を含んだ褐色の粉末を capsule の中に 200mg か 400mg 入れたものが一般にアメリカの Drug Store で売られています。毎日 200mg の 1 capsule を1回ずつ取るようにと書いている Solaray 社のものから、400mg の capsule を1回に2ヶ毎日3回飲むようにと書いている Nature's Herbe 社のものが代表的なものです。Astragalus は中国では古くから免疫を刺激する薬草として癌、心臓病、関節炎、Fibromyalgia (線維筋痛症)、感染症によく使われていましたが、最近、エイズの患者にもよく使われています。適量をやると正常細胞のテロメアが 1yg 前後に極端に減少していても最高 650ng まで増え、癌細胞のテロメアが0近くに減少するため分裂出来にくくなり、又1回の適量を飲むとその効果がキャンセルされない限り、数カ月から1年位続き、適量でも毎日飲むと最初の日だけ最大の効果が出ますがその後、効果は減少し、人によっては体の害になるという事が初めて、私の研究の結果わかってきました。DHEA の適量を1回やると正常細胞のテロメアが 500~525ng に増え、効果はキャンセルする様なものを取らない限り、半年及び1年くらい続く事も研究の結果、初めて2004年に解明されました。これからわかるように Astragalus の root extract の適量は DHEA の適量よりすぐれた効果が得られる可能性が強いと考えられる。製薬会社の推薦している量を一般の成人が飲むと 200mg の capsule を1日に1回飲んだ人は最初は好ましい結果が出ますが、その後、効果が減ります。400mg の capsule を1日に2ヶ1日3回飲んだ人では初めから中毒量を飲むことになり、癌のある人は癌を促進させる事になり、大変な危険なことです。その反面、各個人がその人特有の適量の Astragalus を1回飲むと、正常細胞のテロメアを inhibit または cancel するようなものをとらない限り、Anti-Aging Effect, Anti-Alzheimer's disease effect, Anti-infection effect, Anti-Diabetic effect, Anti-Hypertension effect, Anti-Cancer effect が得られ、更に栄養のバランスがとれた食事を腹8分目にとり、毎日運動を続けるのを続けると Anti-Obesity effect も得られる。人間の姿勢はとても大事で健康にも大きく関係しているといわれています。腰の曲がった人よりもまっすぐに伸びている人、背中や首が前方や左右に曲がっている人よりも背筋がまっすぐに伸びている人の方が見た目にも健康だと思われるでしょう。

以前に人間の姿勢が正常組織のテロメアや癌組織のテロメア数値に対してどのような影響があるのかということを実験で調べました。行った実験内容は、1. 姿勢を正した状態と 2. クビ、背中、腰を曲げた状態とで正常組織のテロメア数値にどの程度の影響が現れるのかをO-リングテストで調べました。1. 姿勢を正した状態は、腰・背中・首をまっすぐに伸ばし、正面を向いた状態。この状態で正常組織のテロメアを測定し 550ng である人に、2. 腰や背中を曲げた状態になってもらい正常組織のテロメア数値を測定すると、途端に 25ng や 10ng まで低下する人が多いという結果になりました。もちろん一概に断定することはできませんが、このバイ・デジタルO-リングテストの結果からも身体のまっすぐな良い姿勢が癌のある人や「健康で長生き」に対して重要であることはわかれると思います。但し、膵臓頭部の癌のある人では体を前に曲げると背中や腹部の痛みが減るので、この場合に限り例外です。

◎ 大村恵昭先生の症例



C.C. (主訴) : 最近、非常に疲れる
32 Y.O

Small cell Carcinoma of Lung (肺の小細胞癌)
May 6, 2004

肺の Small Cell Carcinoma は左右の肺に対し上
的な所に対として現れる事が多い。癌の+反
応である左右の肺にある小さい円形の 2 カ所
では、次の様な癌反応が測定された。

1. Integrin $\alpha_5\beta_1$: 350ng
2. Oncogene C-fosAb2 : 350ng
3. Hg (水銀) : 350ng
4. Asbestos (アスベスト) : 0.15mg
4. Acetylcholine : 100zg
5. Virus (ウイルス・細菌の反応) : ↑↑↑↑↑
6. 癌の Telomere : 1100ng
7. 8-OH-dG : 50ng
8. Folic Acid (葉酸) : 1yg
9. Vit.B12 (ビタミン B12) : < 1yg
10. Neuron Specific Enolase (NSE): 40ng

2004 年 5 月 7 日にスクリーニングを行ったところ初期の肺がんである可能性が高いという診察結果を出しました。肺癌の反応のある所ではテロメアが異常に高い 1100 ng で身体の正常部分のテロメアはすべて非常に低く、1 yg(=10⁻²⁴g)以下です。そして写真下部右 (卵巣) にも-6 で、何かしら初期の腫瘍もしくは癌疑いがありました。この患者さんには私の方針通り、疑いのあるところを定期的に最新医療機器で検査をするように指導していました。

この患者さんからわかったのですが、写真上部の顎が赤く腫れ上がっていることが見てわかると思いますが、ここが卵巣の臓器代表領域です。この腫れ上がった卵巣代表領域及びそのすぐ下に見られる境界線のみを調べると中心よりすぐ右側の非常に小さな領域に癌反応が出ています。唇の下に深い横断した溝は女性では子宮を代表しています。